

災害時協働隊も積極参加

港南区は9月7日、2025年度初となる地域防災拠点運営訓練を2カ所で実施した。



前列左から、栗原区長、古屋委員長、同慶会の松井理事長ら参加メンバー

隊」と呼ばれる災害時協力事業所の登録制度に昨年度から尽力。9月12日時点では159社が登録されている。7日の訓練に協働隊として地域の事業者も積極参加し、自治会役員らと情報交換した。

永谷小

A photograph showing a group of people in a gymnasium setting. In the center, a man in a white shirt and cap is pointing towards a white pop-up tent. To his left, another man in a dark uniform and cap stands near a blue folding chair. Several other individuals are visible in the background and foreground, some appearing to be children. The gymnasium has basketball hoops and a polished wooden floor.



段ボールトイの説明

永谷小学校での拠点運営訓練では、段ボールトレーの使用方法や、災害時の調理、地震の際に火災を防ぐ感震ブレーカーなどについて地域住民ら

が地域住民に対し、で
きることなどが共有され



日野南中

が学んだ。訓練には協働隊の（特養）サンバラ、長田病院、創価学会、港南文化会館、下永谷地域ケアプラザらも参加。発災時には車椅子のまま搬送できる車両を持つている事業所がある。屋文雄さん（下永谷連合会、町内会会长）は「自治会、町内会だけでなく、地域の事業所が訓練に参加してくれることは心強い。意見交換ができると良い。」と話す。